

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	子ども一人一人を愛情をもって鍛え、よさや可能性を引き出し、伸ばす教育を実践することで、児童が成長と安心、思いやりを感じ、笑顔が溢れる紙屋小学校の学習・生活を実現する。
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			取組別	総合	
知 育	重点目標： <u>学力の向上</u> 手段： 1 児童がわかる・できると感じる授業実践 2 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導 3 考えや思いを積極的に表現する力の育成 4 家庭学習の充実	1について (1) 主体的・対話的で深く学ぶ学習の推進 (2) ICTの授業活用1日1回以上100%	2.9	2.9	1について ○ 新型コロナウイルス感染拡大により、授業日数・授業時数が大幅に削減されたが、学習内容については、ほぼ予定通りに習得することができている。若干スピードを上げたことで詰め込み気味になってしまった可能性がある。 ○ タブレットについては、徐々に活用が図られてきているが、まだ十分とは言えない。更なる活用のスキルを一人一人の教員が身に付けていく必要がある。
		2について (1) 学力向上タイムを生かした基礎基本の定着 (2) 各学力テストの分析に基づいた指導の充実 (3) 計算、漢字コンテストの年2回実施と指導の充実	3.0		2について ○ 本年度は朝の時間を活用した「学力向上タイム」を帯の時間帯で確保している。各教科の基礎的・基本的内容を振り返り、学力向上に向けた取組を行った。 ○ 学年末に向けてCRTテストの活用による「学びの確認」を行い、児童一人一人の習熟状況に応じた指導を充実させることができた。 ○ 本年度も計算・漢字コンテストに向けて各クラスで積極的な取組が見られた。満点の児童は各クラスで紹介し、表彰を行っている。
		3について (1) 生徒指導の3機能に留意した指導 (2) 年間を見通した計画的な作品応募	2.7		3について ○ 生徒指導の3機能「自己決定」「自己存在感」「共感的な人間関係」については共通して指導が行えなかった部分がある。次年度以降も継続して行ってきたい。 ○ コロナ禍により中止になった作品募集等もあったが、社会教育課主催の「家族の作文」では5名の児童が入選を果たすことができ、学校賞をいただくことができた。
		4について (1) 授業と連動した宿題の精選	3.4		4について ○ プリントや自学ノートを中心に、長期休業中の課題も含めて計画的な指導を行うことができた。
徳 育	重点目標： <u>豊かな心の育成</u> 手段： 1 基本的な生活習慣の形成 2 豊かな感性の育成 3 道徳教育、人権・同和教育の充実 4 いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期解決	1について (1) 「あいさつ」「返事」「言葉遣い」の継続指導 (2) 規範意識を高める指導(紙屋っ子の約束)	2.5	3.0	1について ○ アンケートによると「あいさつ」「返事」「言葉遣い」について、児童自身もできていないと感じていることが分かった。家庭、地域と連携した取組が必要である。 ○ 規範意識については、「紙屋っ子の約束」を年間を通して意識した指導を行い、児童だけでなく、家庭にも周知を図っていく。
		2について (1) 読書量年間冊数下学年100冊、上学年50冊達成率70% (2) 朝の読み聞かせとハートタイムの実施	3.4		2について ○ 読書量については図書室の貸し出し冊数が、平均111冊(1/14現在)と目標を十分に達成できているにも関わらず、アンケートでは結果(児童、保護者、職員)が思わしくなかった。 ○ 非常事態宣言で一部読み聞かせが実施できない時期があったが、「たんぼぼ」のみなさんのおかげで充実した活動を行うことができた。
		3について (1) 「考え議論する」道徳科授業の充実 (2) 道徳教育・人権同和教育の充実(年2回の人権に関わる授業の実施)	3.0		3について ○ 紙屋中と合同で「道徳」に関する研修を行っている。授業研究会や主題研修を通して、授業「考え、議論する道徳」の充実が図られてきている。 ○ 「西諸みんなで人権を考える取組」(年2回)に合わせて、人権について考える学習を計画的に行うことができた。
		4について (1) いじめの認知解消率100%、不登校0 (2) 教育相談体制の充実	3.3		4について ○ いじめや不登校の問題については全職員で話し合いながら対応にあたっている。本年度から積極的な「いじめ」の認知に努めている。 ○ 教育相談体制については職員だけでなく、関係機関とも連携を図りながら相談体制の充実を行うことができた。
体 育	重点目標： <u>体力の向上</u> 手段： 1 規則正しい生活習慣の育成 2 体力向上の推進 3 立腰指導と正しい鉛筆握り、箸使いの徹底 4 「自分の命は自分で守る」意識の醸成	1について (1) 「早寝・早起き・朝ご飯」+「排便・歩いて登校」の児童達成率80%	2.6	2.8	1について ○ 「早寝・早起き・朝ご飯」は十分に達成できているものの「歩いて登校」の部分で評価が低くなったと思われる。
		2について (1) 体力向上のための準備運動の工夫(瞬発力を高める運動を取り入れる) (2) 2学年合同体育による技能、競技力の向上	2.8		2について ○ コロナ禍により、本年度は体力テストが実施されなかった、令和元年度の結果を基に体力向上のため取組を各学年で行っている。 ○ 体力面では素晴らしい力をもった子どもたちが多い。コロナ禍で運動不足等が心配されたが、情報発信も含めて効果的に指導を行うことができた。
		3について (1) 授業前・授業中の立腰指導の徹底 (2) 正しい鉛筆の握り方定着100%	2.8		3について ○ 立腰指導については評価が高かったものの鉛筆の握り方についての評価(児童、保護者、教師とも)が低い。鉛筆の使い始めの時期の指導が重要だと考える。
		4について (1) 各種避難訓練の充実 (2) 登校班指導の徹底	2.9		4について ○ 本年度は新型コロナの影響で引き渡し訓練を行うことができなかった。 ○ 登校班については登下校中のトラブルが数件報告された。
食 育	重点目標： <u>望ましい食習慣の育成</u> 手段： 1 個に応じた給食指導と食事マナーの徹底 2 栄養教諭・養護教諭の連携による食育の推進 3 食を通じた感謝の心の醸成 4 家庭・地域等との連携による食への意識の向上	1について (1) 計画的な給食指導の実施と食べ残し0 (2) アレルギー対策の徹底	3.5	3.2	1について ○ 紙屋小は食べ残しが非常に少ないと給食センターからもありがたい評価をいただいている。家庭での指導もあつてのことと感謝している。 ○ アレルギー対策については保護者、給食センターと連携した指導が行えた。
		2について (1) 指導計画に基づいた給食主任・栄養教諭等を活用した食育指導の実施	3.1		2について ○ 養護教諭、給食センターの学校栄養職員と連携し、充実した指導を行うことができた。
		3について (1) 食に関する学級活動・家庭科授業、給食感謝週間の充実による感謝の心の醸成	3.0		3について ○ 三密を避けるため、例年1月に実施している給食感謝集会を実施することができなかった。しかし、事前に健康委員会児童によるビデオを撮影し、全校児童に向けて放映することで給食についての理解と感謝の心を高めることができた。
		4について (1) 実践に結びつく年2回の「弁当の日」の充実 (2) 米作り・いも作り等による食育の推進	3.2		4について ○ 「弁当の日」については保護者の協力もあり、充実した指導を行うことができた。 ○ 「米作り、いも作り」についても保護者やJA青年部の協力により充実した活動を行うことができた。
そ の 他	教職員の働き方改革 手段： 1 リフレッシュデーの実施 2 全職員による施錠管理	1について (1) 水・金曜日のリフレッシュデー(17:15退庁)の完全実施	3.0	2.9	1について ○ 「働き方改革」により、リフレッシュデーに限らず、勤務時間を意識した働き方を推進することができた。
		2について (2) 全職員の協力による施錠管理	2.9		2について ○ 徐々に、全職員による施錠管理という意識が見られるようになってきた。

次年度の方向性について の校長所見	本年度の取組と次年度に向けた改善について 本年度は新型コロナウイルスの影響で、予定していた教育活動を十分に行うことができないことがあった。しかし、様々な制約がある中で、教育目標達成のため全職員の協力による指導の充実を行うことができたことと自負している。本年度、課題として上げられたものについては改善を行っていき、子どもたちのよりよい成長のため更に工夫を行っていきたい。来年度以降も新型コロナウイルスの影響は避けられないと思われるため、健康、安全面には十分配慮し、その中で何が大切なものを見失わないように見極めながら保護者、地域と連携して、よりよい紙屋小学校をつくっていくように努めたい。
----------------------	--

